

喪服について

呉服の粹

都屋

〒506-0844 高山市上一之町 36 番地
TEL 0120-29-0132 FAX 34-9280

喪服について

この小冊子を開いていただきましてありがとうございます。

まずは私どもが毎月市民時報に掲載しているコラム広告の中で、喪服について書いたものをピックアップしてみました。ご一読くださいませ。

◆きものエッセンス 16 喪服

喪服は正式には「黒紋付」と言う。黒紋付に黒の名古屋帯をした装いを喪服姿と言い、今ではお葬式以外に着る事が無いので黒紋付を喪服と呼ぶようになったらしい。

喪服として黒が用いられるようになったのは比較的新しく明治時代のことで、西洋に倣ったようだ。それまでは日本の喪服の色は「白」だった。喪服は葬儀用なので法事には着ない。

◆きものエッセンス 45◆葬儀と和装

飛騨では葬儀の際は、親族はほぼ黒紋付（女性は喪服）を着用する。

よそではほとんど洋装である。しかし参列して下さる方々は、急な葬儀のために全ての予定をキャンセルしてわざわざ参って下さるのだから、こちらが礼を尽くして和装でお迎えするのは当たり前のように思う。色々なしきたりが簡素化していく中で、この習慣は残していきたい。

きものエッセンス 68◆喪服の準備

残念ながら喪服を着る場合は急にやってくる。

貸衣裳もあるが、それでは具合が悪いという方もいるだろう。

どうか家族が元気なうちに喪服を誂えて欲しいし、喪服がある場合は点検をしておくが良い。ずいぶん前に誂えたものだとは裾が短かったり、身巾が狭かったりする。病人が出てからでは準備をする余裕がなくなるし、呉服屋も喪服をお薦めできなくなる。

以上は私の喪服に対する考え方です。

喪服について

喪服とは？

黒一色のきもので、背中に一つ、左右の袖に一つずつ、左右の胸に一つずつ合計五つの家紋が入ったきものです。五つ紋のきものは一番格が高いきものです。

喪服は正式には黒紋付といいます（前ページきものエッセンス 16 参照）

黒紋付のきものに、黒の帯をした装いを喪服姿といいます。

最近ではお嫁入りにきものを持って行かれる方も本当に少なくなりました。

それはそうでしょう。ほとんどの方がタンスの肥やしになっているので、着ることのないきものを持って行く必要はないと私も思います。では、喪服はどうでしょうか？

喪服は必要か？

◆喪服は急に着なければならない！

おめでたいことは予定が決まっているので、着るきものを持っていなければ準備することができます。

ですが喪服は、明日もしくは明後日着なければいけないというケースがあるので、持っていないともう間に合いません。

かといってご家族が病気になってからでは、いかにも亡くなるのを待っているようで、こちらもお薦めできません。そのため喪服については、ご家族が健康な時に前もっておつくりになる方がほとんどです。

だったら喪服はレンタルでいいという方もいらっしゃいます。（最近は増えていると思います）レンタルは便利ですが、長襦袢は化繊ですし、自分の家紋がレンタルにはない場合、シールを貼ったりします。寸法も合わないので、着心地はよくないです。

レンタルしてまで着る必要があるのであれば、きちんとご自分の喪服を用意なさっておいた方が気が楽です。

◆実際に着る機会がある喪服

タンスの肥やしになるくらいならばお嫁入りにたくさんきものを持って行く必要はないでしょう。嫁ぎ先でも「何も持ってこなくてもいいよ」と言われるかもしれません。

でも、本当に何も持っていないと「喪服も持ってこなかったの？」

喪服について

と言われて恥ずかしい思いをするのは嫁いだ娘さんです。

「喪服ぐらいは、何も言わなくても用意してくるでしょう。」という意識は、今でも根強く残っています。

普通のきものは着る機会がないこともありますが、残念ながら喪服は必ず着る機会があるのです。そういう点でお嫁入りに必要なきものだと言えます。

◆嫁ぐ（孫）娘への家族の思い

私どもで喪服のご注文をいただく場合、おばあちゃんが孫娘に作ってあげたいとおっしゃる方が多いように思います。

お嫁入りで喪服を持って行く場合は、実家の紋を入れます。

いわば実家の家紋は嫁ぐ（孫）娘のお守りとも言えます。

◆喪服を着るということ

残念ながら必ず訪れる大切な人との別れ。そのお葬式に喪服を着ることは故人への敬意と感謝を表すと同時に、参列者への礼を尽くすことにつながります。

家族が亡くなってからお葬式が済むまでは本当に慌ただしいです。

でも、お葬式は大切な人が一生を終えたことに対して感謝と敬意を表して礼を尽くす場だと思えます。だからこそ、簡単に洋服で済ますよりも最も格が高い五つ紋のきもので故人を送るべきだと考えます。

これはあくまでも個人的な見解ですが、きちんと喪服が準備できていれば、おざなりなお葬式ではなく、本当に故人を偲ぶ温かみのある葬儀をする余裕が出てくるのではないのでしょうか？

喪服はいくらくらいするのか？

何が必要なのか？

私どもの喪服は買いやすい値段ではありません。

ですが、お客様が一代お召しになっていただけるきちんとした商品です。

また、商品に関しては私どもで責任をもってサポートいたします。

喪服について

◆袷喪服一式のお値段

袷喪服(お仕立上がり・税込)	¥216,700
白単衣袖無双長襦袢(お仕立上がり・税込)	¥99,000
黒名古屋帯(お仕立上がり・税込)	¥176,000
冬用帯締め・帯揚げ(税込)	¥30,800
和装小物一式(税込)	¥11,000
合 計	¥533,500

◇単衣・夏兼用喪服一式のお値段

※以前は袷、単衣、紵と3枚の喪服を作っていましたが、単衣、夏兼用の喪服ができました。

単衣・夏兼用喪服(お仕立上がり・税込)	¥215,600
白紵長襦袢(お仕立上がり・税込)	¥91,300
黒紵名古屋帯(お仕立上がり・税込)	¥176,000
夏用帯締め・帯揚げ(税込)	¥22,000
合 計	¥504,900

◆喪服用草履 ¥33,000 (税込)

◆きもの用パック ¥8,800 (税込)

きものと帯、長襦袢をまとめてパック(ガスを充てんします)
虫干しなどの心配がなく保管できます(10年以上大丈夫です)

喪服について

喪服を着る機会が訪れたら私どもにご連絡ください。

足りないものなどがないか確認いたします。

お葬式が済んだら、きものの汚れ落としをいたします。
きれいにしてきちんとたとう紙に入れてお返しします。
長襦袢の半衿も外して洗って、また付け直します。

何なりとお尋ねください

今持っていらっしゃる喪服の寸法直し、家紋の入れ替えなど、私どもでできることは何でもいたします。何なりとご相談ください。

私どもはお客様の大切な葬儀のお役に立ちたいと思っています。

ここまでお読みいただきありがとうございました。

【令和 04 年 07 月 27 日】